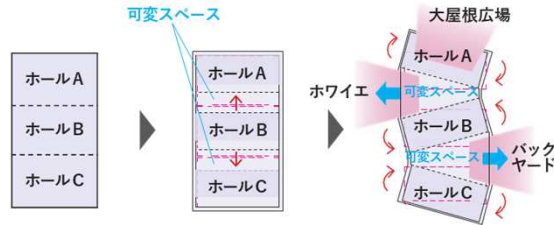


よりフレキシブルな活用、特徴的な外観と屋上広場の創出、ホワイエの補完や遮音性向上を図る「雁行型ホール」の提案

1 よりフレキシブルな雁行型ホール

- ・ホールに可変スペースをつくり雁行させることにより、従来の3分割ホールより、更にフレキシブルなホールに。
- ・ホールの面積構成や利用パターンが多様になることに加え、広場だけでなくホワイエ側にも開かれる、特徴的なフレキシブルホールを実現。

■ 雁行型ホールの考え方



①従来の3分割ホール ②可変スペースをつくる ③角度をつけて周囲に開く

■ フレキシブルな面積構成

可変スペースにより利用パターンが増加し、多様な面積構成での貸出しが可能。

■ ホール面積構成表(短形:3パターン → 雁行型:7パターン)

| ＜短形ホール3分割案＞ | | | ＜雁行ホール×可変スペース案＞ | | |
|-------------|------------|----------------------------|-----------------|--------------------|---------------|
| イメージ図 | 利用パターン | 面積 (収容人数) | イメージ図 | 利用パターン | 面積 (収容人数) |
| - | - | - | - | 可変スペース単体 (展示利用等) | 210㎡ |
| | ホール (1区画) | 550㎡ (400人) 又は 400㎡ (350人) | | ホール (1区画) | 360㎡ (300人) |
| - | - | - | | ホール (1区画+可変スペース) | 570㎡ (400人) |
| - | - | - | | ホール (1区画+可変スペースx2) | 780㎡ (500人) |
| | ホール (2区画) | 950㎡ (750人) | | ホール (2区画+可変スペース) | 930㎡ (750人) |
| - | - | - | | ホール (2区画+可変スペースx2) | 1140㎡ (1000人) |
| | ホール (全体利用) | 1500㎡ (1500人) | | ホール (全体利用) | 1500㎡ (1500人) |

※分割時の面積は今後の詳細検討で変更になる可能性がある。
※収容人数はシアター形式での目安であり今後の詳細検討で変更になる可能性がある。

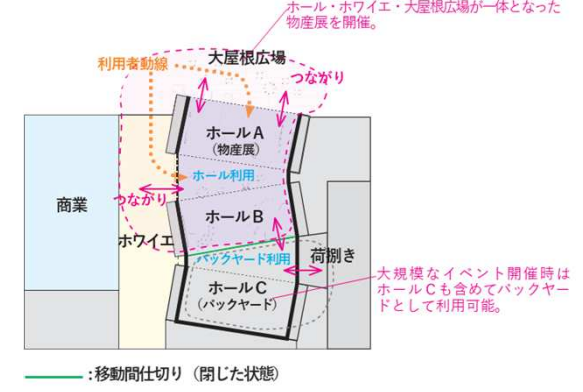
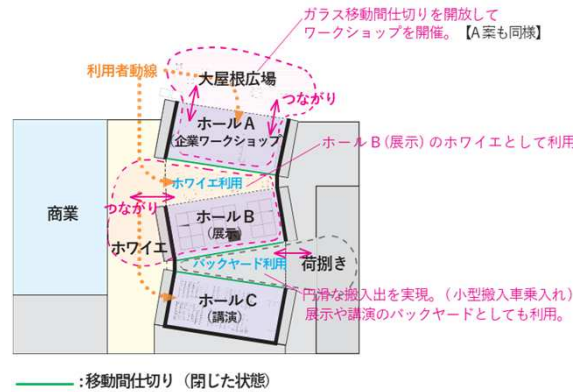
■ 会議室(2~4F) 面積構成表 (参考)

| | |
|--------------------|------|
| 小会議室 | 75㎡ |
| 中会議室 | 130㎡ |
| 大会議室兼バンケット (2分割利用) | 300㎡ |
| 大会議室兼バンケット (全体利用) | 600㎡ |

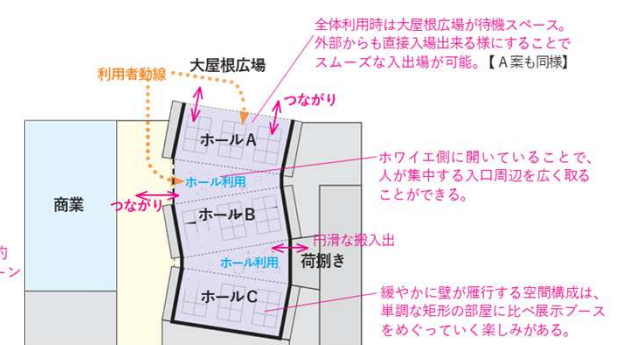
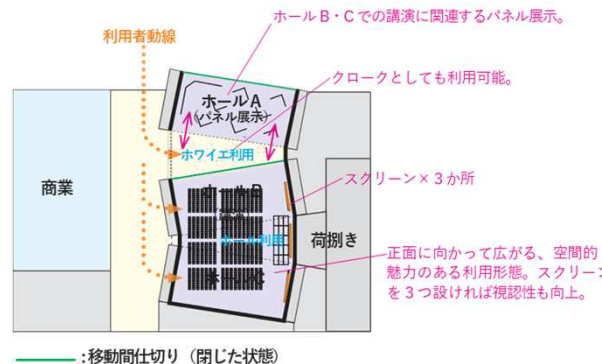
■ フレキシブルな利用パターン・周囲とのつながり(例)

可変スペースがホワイエ側・荷さばき側に開く形状となり、ホワイエ・バックヤードとつながった様々な使い方が可能。可変スペースがホワイエになり、ホールになり、搬入スペースやバックヤードになる。単独で展示利用することも可能。

- ① 「ホールA+大屋根広場」、「ホールB+ホワイエ」、「ホールC+荷さばき」 (可変スペースのホワイエ・バックヤード利用) 3分割利用 ~企業による展示会・講演会・ワークショップ~
- ② 「ホールAB+ホワイエ+大屋根広場」、「ホールC+荷さばき」 (可変スペースのホール・バックヤード利用) 2分割利用 ~一体的な物産展~



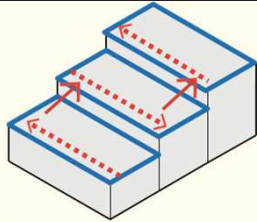
- ③ 「ホールBC(講演会)+ホールA(展示)+ホワイエ」 (可変スペースのホワイエ利用) 2分割利用 ~講演会+パネル展示~
- ④ 「ホールABC+大屋根広場」 (可変スペースのホール利用) 全体利用 ~ホール全体を使った展示イベント~



2 特徴を持ったスペースが内外に連続する施設構成

A案(矩計ホール)

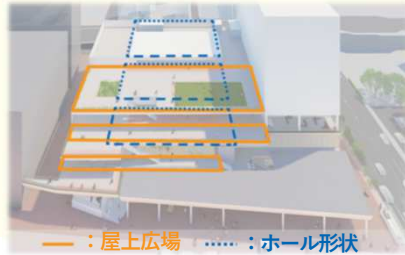
■ 屋上広場について



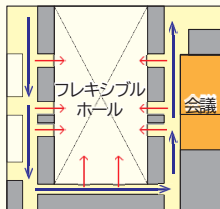
動線と視線が独立する落ち着いた空間構成

矩形ホールを段々状に立ち上げていくと、同一幅の屋上空間が生まれる。また各層の奥行きが均一で上下に視線が誘導されにくいいため、動線や視線が単調になり、上下の空間のつながりが生まれにくい。

⇒落ち着いた空間が層状に重なり、独立した広場になりやすい。



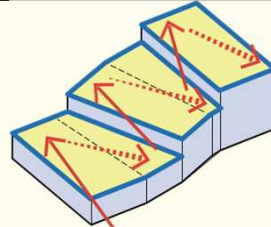
■ 2階以上の会議室フロアの共用部について



矩形ホールの形状は直線的で均質な空間をつくるため、共用部の変化を生みにくい。

⇒廊下状の空間が連続することになり、休憩や賑わいが生まれにくい。

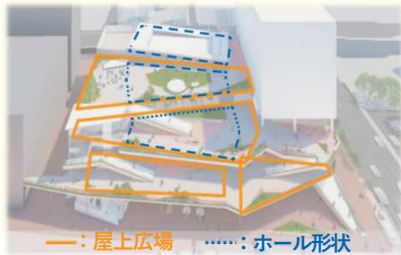
B・C案(雁行型ホール)



動線と視線が交錯する動的な空間構成

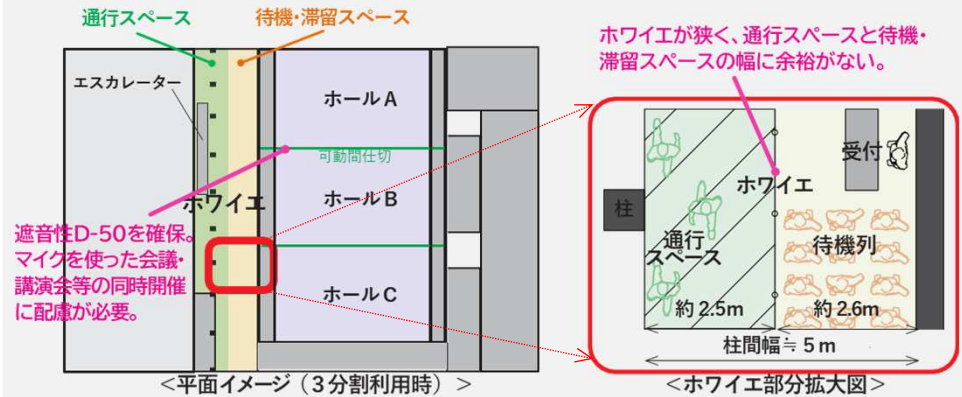
雁行型ホールを段々状に立ち上げていくと、矩形でない屋上空間が生まれる。また斜めになることで各層の奥行きに変化がつき上下に視線が誘導されやすいため、動線や視線が交錯して、上下の空間のつながりが生まれやすい。

⇒動的な空間が層状に重なり、連続した広場になりやすい。

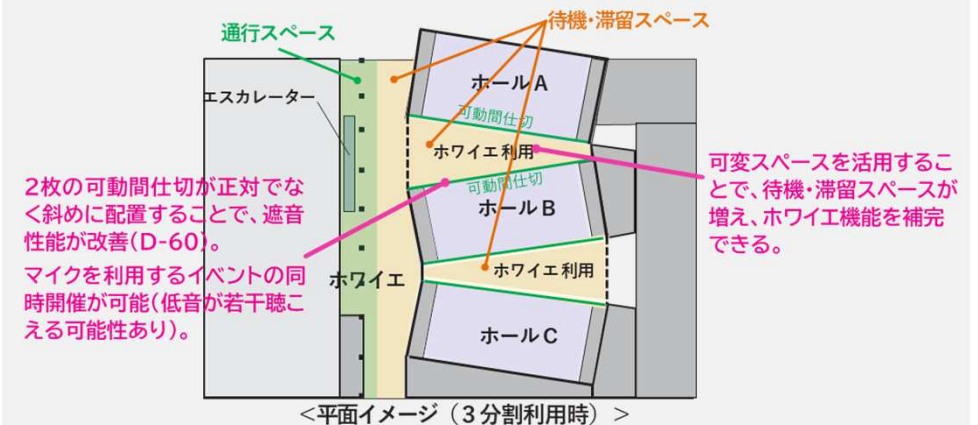


3 ホワイエ機能の補完・遮音性の向上

■ A案(矩形ホール) <分割利用時>



■ B・C案(雁行ホール+可変スペース) <分割利用時>



※ A案、B・C案とも、全体利用時は大屋根広場を来場者の待機・滞留スペースとして活用する。

※ 雁行の向きを反転させる形についても検討する。